



研修医生活もはや1年

大分県立病院

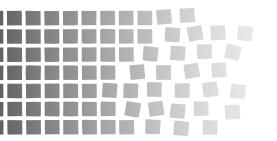
髙 橋 克 成

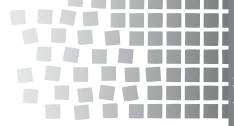
春分の候、諸先生方におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。 大分県立病院で研修をさせて頂いております、研修医1年目の髙橋克成と申します。これを書いているのは今年の医師国家試験の次の日でした。つまり僕たちが受けた国家試験から、はや1年経ったということになります。また研修医もほぼ1年経過したということで研修医生活の1年間を振り返ってみたいと思います。

この1年間は本当に勉強の毎日でした。まずはカルテの使い方に始まり、指示簿の出し方や病棟の決まり事、最初は薬剤を生食に溶かして使用することもわからないような状態でした。同じ効果のある薬でも機序は様々、薬の投与法や投与量など学生の時には学んでないものは数知れず、国家試験の勉強なんてほとんど役に立たたないじゃないですか!と途方に暮れる日々でした。さらに僕が困ったことは丁寧な文章の書き方です。「御高診御加療のほど〜」、「御担当先生御侍史」など難しい文章、コンサルや紹介状を書くことなど初めは至難の業でした。そんな僕ですが、大分県立病院でたくさんの同期、先輩の諸先生方に助けられ、文章の書き方や業務のこなし方、医学的な知識など、この1年で何とか成長できたのではないかと思っています。ただ、やはり先生方の経験と知識、そしてなにより視野の広さを目の当たりにすると、もっと精進しようと身が引き締まる思いになります。

さて話は変わりますが、この頃、「新型コロナウイルス、第5類感染症へ」や「マスク着用は個人の判断」など、いわゆるコロナ緩和のニュースを耳にすることが多くなりました。僕たちはコロナ真っ只中に研修医になった世代であり、先生方と飲みに行く機会は少なく、同期の飲み会も小規模であったりと何かと制限がかかっていました。また当直中にコロナ陽性が発覚し頭を悩ますなんてことも多々ありました。マスク着用の風潮が薄れるのはまだもう少し先の話だと思いますが、僕個人としてはコロナ前の日常が少しでも戻ってくれたらなと期待しています。

来年度コロナ問題はどうなるかはわかりませんが、仕事もプライベートも楽しみながら頑張れたらと思います。楽しむだけではなく初期研修医のうちに幅広い知識・経験、そして視野の広さを獲得できるよう精進していきたいと思います。以上でこの1年を振り返ってのご報告になります。最後まで読んでいただき誠にありがとうございました。







自己紹介

大分県立病院

吉 橋 誠 人

大分県立病院 1年次研修医の吉橋誠人と申します。

出身は東京都武蔵野市で、住みたい街で有名な吉祥寺が近所にあります。

自閉症児との混合教育をおこなう武蔵野市の幼稚園・小学校に通いました。サッカー部に所属し、痛くて怖いのでなるべくヘディングしないという致命的なプレーでDFをクビになりました。当時FWでキャプテンを務めていたのが、いまや有名な四千頭身の石橋でした。47都道府県の旅行経験とともにローテーション初日の自己紹介で乱用しています。

尾木ママがかつて教鞭をふるっていたらしい練馬区の公立中学校に進学しソフトテニス部に 所属するも、やはりここでも前衛アタックが怖くてまともにボレーできた記憶はありません。 中学1年生の運動会直前に急性虫垂炎を発症、小児病棟に入院・手術を受けました。医療スタッフの 方々・長期入院する子供たちの姿をみて小児科医を志すようになりました。急性虫垂炎になって いなければ今の自分はなかったかもしれません。

塾の先生に記念受験を促されるくに過去問も解かずに奇跡的に合格した開成高等学校に進学しました。周りはとにかく優秀でやや浮いていましたが、そんな環境に刺激を受けながら1浪を経て大分大学医学部に入学させていただきました。

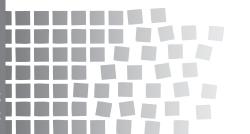
ソフトテニス部に入部し、キャプテンを務めました。プレーで引っ張ることはできませんでしたが、 魅力的な先輩方や頼れる同期に支えられ、なるべくみんなとコミュニケーションをとり、この 部活を選んでよかったと後輩たちに思ってもらえるように心がけました。

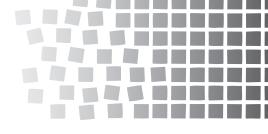
医学部祭では広告部長を務め、県内の多くの企業・病院から多くの支援をいただきました。 街のいたるところで当時広告にご協力いただいた企業・病院をみかけ、頭が上がりません。偶然 その年のゲストが四千頭身で、特別に楽屋で挨拶させてもらい不思議な感覚でした。

国試対策委員として先輩の国試に現地帯同し、当日の弁当がバス1台分足りないというトラブルには肝を冷やしましたが、本番の流れを知るいい経験となりました。

周りに支えられながらなんとか医師国家試験に合格し大分県立病院にて初期研修をさせていただいております。自身の無力さを痛感する毎日ではありますが、各診療科指導医の先生方や医療スタッフの方々にお忙しいなかご指導いただき感謝しています。研修医の面倒見のよい指導医となれるよう頑張ります。病棟や救急外来での緊迫した場面やIC、残念ながら救命できなかった現場に立ち会うと、先生方のようになれる日がくるのだろうか、生命をあずかるこの職業に進んでよかったのだろうかと思う日もありますが、初療で立ち会った患者さんが元気に退院する様子、担当患者さんからお手紙をいただいた時にはやりがいのある職業と感じます。

担当患者さんが小児科医を目指してくれるような、そんな小児科医をめざして、感謝を忘れず 謙虚に、生涯学習していこうと思います。今後ともよろしくお願いいたします。







「研修医生活 ゆく年くる年」

中津市立中津市民病院

森 山 遼 太

あけましておめでとうございます。諸先生方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。中津市民病院、研修医1年目の森山遼太と申します。新年のご挨拶で始まりましたが、私がこの文章を書いているのは12月、この場を借りて研修医生活1年目の振り返りをさせて頂ければと思います。

生まれも育ちも大分県日田市で、地域枠として入学した大分大学。6年間の大学生活を終え、 医師3年目の地域勤務を見据えて研修に選んだのが、ここ中津市民病院でした。研修医生活1年目の 感想はとにかく、「あっという間だった」の一言に尽きます。個性的な先生方に囲まれ、非常に 楽しい1年間を過ごさせて頂きました。

やはり研修医の主戦場は救急外来、中津市民病院の救急当直は上級医1名+研修医1名の医師2名体制で行われております。1年間しかない中津での研修を味わい尽くすべく、私は年度当初より全ての上級医との当直を経験することを目標としておりました。先生ごとに当直の内容は千差万別、

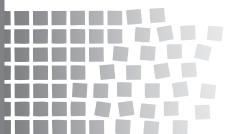
- ・どんな患者もこちらに一度対応問うてくださる教育熱心な先生
- ・追いつけないほど仕事が迅速で、気が付いたら全てを終わらせてしまっている先生
- ・心配になるくらいファーストタッチを任せきりにしてくださる先生

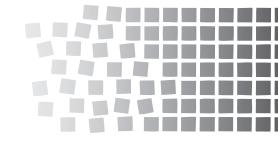
沢山の先生とご一緒させて頂き、多くを学ばせて頂くことができたと思っております。時には「一つ前の先生と言うことが180度違うぞ!」と理不尽な思いをすることもありましたが、それもまた経験。徐々に任せてもらえる仕事が増えたことに気が付いた時、自分が幼少期の夢であった憧れの職業に就いたことを実感すると共に、医師という職業の難しさと面白さを再確認することができました。様々な先生方の現場を目の当たりにして診察・診断・手技はもちろんのこと、患者さんとの話し方・医療スタッフとのコミュニケーションの取り方まで、「こんな風になりたいな」と日々更なる目標が積み重なっております。こうした充実した研修生活が送れたこと、この場を借りて中津市民病院の皆様に感謝を。

さて、先ほども触れましたが私は地域枠。そんな少しの酸いと沢山の甘いが詰まった中津での1年間も終わりを迎え、来年度はたすき掛けで大分大学病院に戻っての研修となります。次はどんな先生方と出会い、何に挑戦し、どのような成長が待っているのか、楽しみでなりません。大学病院の皆様、加えて将来出会うであろう諸先生方の皆々様、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。堅苦しい文章となりましたので、最後に謎かけをひとつ。

『来年度の研修』と掛けまして、『NPPVで治療中の肺水腫』と解きます。その心は、「最初は心配 (心肺) で大変ですが、胸を期待 (気体) で膨らませて、新人 (心腎) 頑張って働いて参ります。温かく見守っていてくださると幸いです」

お後がよろしいようで、ご精読ありがとうございました。





経験不足でもできること

大分県厚生連鶴見病院

大 隈 壮

大分県厚生連鶴見病院で働いております、研修医一年目の大隈壮です。働き始めて既に八ヶ月が経ちましたが、いまだに国試の夢にうなされる日があります。僕の父親は獣医師で、僕と同様に国家試験を突破してきたのですが、先日「最近うなされなくなったなぁ」と言っており、それでいくと僕も父親の年齢になるくらいまでは悪夢に悩まされるのでしょうか。嫌すぎる。

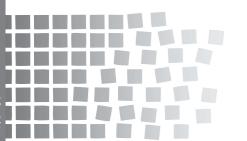
こうして何度も(実際は一回)国家試験を突破してようやくなることのできた研修医生活ですが、 八ヶ月の中で思い出に残っているエピソードがあります。

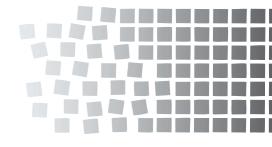
僕が最初に死体検案書を書いたのは5月下旬にCPAで運ばれてきた患者さんでした。上級医の先生や救急の看護師さんは現場の経験も僕より長い分,心肺停止の患者さんも何度も見たことがあるのでしょうが,僕は実際に立ち会うのは初めてでした。一生懸命胸骨圧迫をしましたが,なんとなく,この人はもう助かる見込みが少ない,みたいな空気を感じました。アドレナリンも何本行ったか数えるのを忘れたくらい時間が長く感じました。できることは一通りやった後で,「もうそんなに一生懸命しなくていいよ」と言われた時にはめちゃくちゃ考えることがありました。助かる見込みがない人に対して必死になるのは無駄だしカッコ悪く映るのかな,とか。しかし,悲しいことに経験が浅すぎて僕はその人に助かる見込みがあるのかないのかわかりませんでした。だとしたら自分は助かる見込みにかけた方がいいし,わからないまま人に言われて手を抜いたら後で後悔しそう!と思い手は抜けませんでした。もしかして遠回しに「力入れすぎ」っていう意味か?とも思い,なおさら丁寧にやりました。患者さんは残念な結果に終わってしまいましたが,精一杯自分にできることをやれたので,僕はこの時の判断を後悔していません。

とは言ってもその日は流石に気落ちして家に帰りました。同期の友人が僕を気遣って後で飲みに誘ってくれました。その気持ちがとても嬉しかったです。一度断りましたが後から寂しくなったので二次会から参加しました。ありがとうございます。

理想を掲げるのも限界があるとは思います。いつか自分の中でいろいろな線引きができるのかも しれません。ですが、目の前の患者さんに妥協せず取り組む姿勢そのものは、たとえ不恰好でも 貫こうと思いました。

チーム医療とは学生時代からよく聞く言葉ではありましたが、研修医として働いていくなかで 医療に携わる人々の多さと優しさに五体投地で平伏するばかりです。最後になりますが、支えて くださる皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ご精読ありがとうございました。







憧れを職業に

大分中村病院

吉田拓海

大分中村病院,研修医1年目の吉田拓海と申します。第116回の国試を無事突破し,医師としての一歩を踏み出せたことを嬉しく思っています。支給されたスクラブに袖を通すたび,鼻を膨らませる毎日です。

さて、私は小さい頃からなりたい職業がコロコロ変わっていました。HEROがやってる時は 検察官、古畑任三郎を見た時は刑事とドラマに影響されるガキでした。海猿を見ていた時に腕立て 伏せをしまくる私を見て、親はアホだとため息をついていたものです。そうして25歳の自分は 憧れの1つ、コードブルーの職業、医師になれたのですが、ある重要な事実に気付かされました… 憧れを体現するのは、本当に難しいということに。

研修先の中村病院での救急対応は研修医がファーストタッチを任されることが多く,2次救急ならではといった感じで疾患も幅広いです。対応に慣れて自信を少し持つと,打ちのめされる。そんな事の繰り返しです。

ドラマのようにカッコよくはいきません。本当に山Pへの道は外見含めとってもとっても遠い。 そんな憧れのコードブルーですが、自分の中で大事にしている会話があります。

患者は医者の練習台じゃないという場面:

山Pの"外科医は練習が全て"に対し、

"好きにやれ、ただし賭けには勝ち続ける"と返す柳葉。

賭けには勝たなくてはいけない…

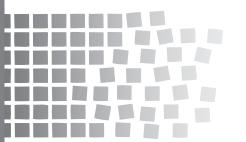
この言葉を思うと、勝つ確率を少しでも上げなければという気持ちになり、自然と事前の勉強と 準備に身が入ります。

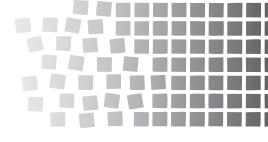
実際、そう自分に言い聞かせ、形成外科のローテーションに向け毎日縫合の練習をしていました。 迎えた初めての縫合の機会をなんとかやり切ることができました。するとまた別の機会を貰える という好循環付き…この積み重ねこそが研修医が賭けに勝ち続けることだと確信しています。

いつか医者人生を続ける中、真に賭けなければいけない場面、カッコよく勝てる自分をBGM 付きで夢想しながら、今はただ泥臭く頑張っています。

最後になりますが、私の弟、吉田柊人は現在大分大学医学部の2年生に在籍しています。今度は 自分が弟にとっての憧れの存在、兄になれるよう残り3/4の研修医生活を全力で駆け抜けていく 所存です。

ここまで読んで下さった皆様方、拙い文章に付き合って頂きありがとうございました。







研修医1年目の近況報告

国家公務員共済組合連合会 新別府病院

丸尾 健太郎

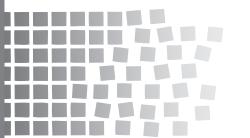
諸先生方におかれましては、益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。私は新別府病院、研修医1年目の丸尾健太郎と申します。10月に入り、いよいよ秋めいてきました。自宅から病院までの坂道を15分ほど歩いて通勤しているのですが、少し前までは照りつける日差しが強く、暑さで汗だくになっていました。最近はその日差しや暑さも和らぎ、心地よい風をうけながら、季節の移り変わりを身を持って感じています。4月に初期研修が始まってから半年ほどが経ちました。自己紹介を踏まえながら、これまでの研修についてご報告いたします。

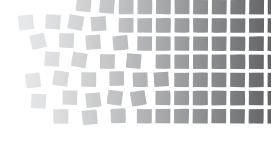
私は兵庫県尼崎市出身で、私立滝川高校を卒業し1浪した後に大分大学医学部へと進学しました。 当初は大学を卒業してから地元に戻ることを検討していたのですが、6年間の大学生活で慣れ 親しんだ大分の医療に貢献したいという思いが強くなったため、大分県を初期研修先に選びました。 また学生時代の院内実習で一番苦手な分野と感じた救急について、2年間で少しでも苦手を払拭 したいと考えていたので、断らない救急医療を掲げて様々な救急患者さんを受け入れている新別府 病院で研修させて頂くことにしました。

約6ヶ月の研修を振り返ってみますと、最初2ヶ月間くらいは、病院の雰囲気や電子カルテの扱いに慣れること、採血といった基本的な手技を身につけることに必死だったと思います。朝は採血が上手く出来ずに冷汗をかくことから始まり、外来見学、病棟の担当患者さんの様子をみてカルテの記載などしているうちに気がつけば日が暮れていました。目まぐるしい日々の連続でついて行くのが精一杯でしたが、上級医の先生方、2年目の先輩方をはじめとした病院スタッフの方々が大変優しく、些細なことでも教えて下さったので、少しずつ出来ることが増えてきました。研修医1年目は私を含めて7人いるのですが、同期の存在はこれまでの研修を乗り切る上で大きかったと思います。全員学生時代からの友人だったこともあり、困ったときなど気軽に相談し合ったり、また同期の頑張っている姿に元気づけられる事もありました。これからも協力して研修生活を過ごすことが出来ればと考えています。

自分の課題だった救急については、毎朝救急科の先生が前日の症例などについて興味深いレクチャーをして下さるので、とても有難いです。レクチャーで教わったことは、日直や当直で実行する機会が多くあります。その時の対応について翌日にフィードバックを頂けて、より多くの事を学べるので、面白いと感じるようになりました。まだ当直で一緒に入る上級医の先生から手取り足取り教えて頂くような状態ですが、今年度中には上級医の先生方の手となり足となり働ける事を目指して、日々精進しています。

最後になりますが、諸先生方の益々のご活躍を祈願して、研修医1年目の近況報告とさせて 頂きます。ご精読ありがとうございました。







研究と研修と

大分大学医学部附属病院

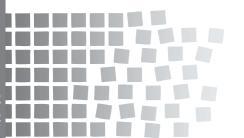
早田暁伸

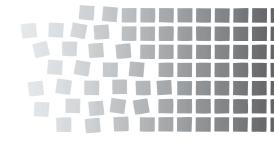
大分大学医学部附属病院、研修医1年目の早田暁伸と申します。医学生から研修医になって5ヶ月。そろそろ新生活にも慣れてまいりましたが、研修医生活は毎日新しい気付きがあって飽きることがありません。年をとるごとに体感時間が短くなっていくという、ジャネーの法則というものがあります。これは若い頃はいろいろな経験をすることで時間が長く感じるが、日々新しいことを体験する機会が減ると体感時間が短くなっていくとのこと。なるほど、今一日がとても長く感じるのはそういうことなのでしょう。

さて、最初に特に医療従事者家系ということでもないわたしが、なぜ医師を目指そうと思ったのかという話をしようと思います。わたしは大分大学に編入する前は、薬学部を卒業後、国立精神・神経センターで精神薬理学の研究をしていました。高校生の時は化学が大好きだったので将来は有機合成化学をやりたいな。と漠然と思っていたのですが、そんな中で私の進路に大きな影響を与えた事件が起きました。祖母が認知症になったのです。それは、医原性のものと言っても過言ではなく、現代医療の限界点を思い知りました。そこで学んだことはそもそも治療を行う前に「確実な診断」が必要であると言うことです。好運にも、前の大学ではうつ病のバイオマーカーといった診断技術の研究にも携わることができ、このまま製薬会社の研究職を目指そうかとも思っていましたが、「このまま実際の医療を見ないまま研究していてもいいのだろうか。」と思うようになり、学士編入した次第となっています。

2度目の大学生活中も、編入直後から基礎研究は再開していて、今は神経生理学講座でお世話になっています。卒業後も初期研修をしながらの大学院にも通うというORPhDにも参加し、基礎研究医プログラムの第1期生としても、研究を続けていきたいと思っています。思い出せば、編入試験の面接の時に「卒業後はどうするのか」という質問に対し「中央に戻って研究をしたいです」と即答した記憶があります。そんなわたしが大分で研修をしているのは、やはり大分県が一期一会ではもったいない魅力があったからではないでしょうか。たしかに一時的に大分を離れることはあると思いますが、医者としては大分で働き、老後は別府の山奥にカフェでも・・・と密かに画策しています。

研修医生活は日々忙しく、自分の知識や技術のなさを実感する機会が多いですが、そのたびに優しい先生方や先輩方に助けていただいております。この場をお借りしてお礼申し上げます。 そして、皆様のますますのご活躍と医療の発展を祈念して、私の寄稿を終わらせていただきます。 ありがとうございました。







ワクワクが止まらない

大分大学医学部附属病院

工 藤 栄 華

照りつける太陽,抜けるような青空,湧き上がるような白い雲。ワクワクの夏がやってきました。 暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか?

さて、俗に「人間の三大欲求」などと言いますが、その割合は人それぞれなのだそうです。 私の場合、一つの欲に全振りしております。それは、何を隠そう「食欲」です。私の趣味は、 ごはんを食べること。それも、たくさん食べることが大好きです。恵まれたことに、大分には コストパフォーマンスの良い食べ放題が多く存在しています。美味しそうな食べ物がたくさん 並んでいる様子を見ると、ワクワクしますよね。膵臓に申し訳なさを感じながらも欲求に負け、 背徳感を感じながら食欲を満たし幸せに浸っています。大食い自慢の先生方がいらっしゃいましたら、 是非食べ放題をご一緒させて頂けますと幸いです。

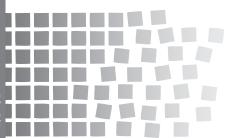
一方で、私はアクション映画を見ることも好きです。映画の主人公のように、格好よくバッタバッタと悪を倒せる強い力に憧れ、1年ほど前から自己流で筋肉トレーニングを始めました。現在、上腹部4パックまで出来上がりましたが、8パックの壁は未だ高いままです。それもそのはず、8パックになるには体脂肪率10%を切る必要があるのです。ここで立ちはだかるのが、前述した私の食欲です。食欲と筋肉欲。日々ジレンマに陥りながらも楽しく暮らしています。

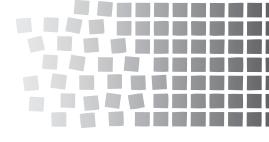
研修医になって早4ヶ月。人間に例えると、まだまだようやく首が座りはじめたばかりの赤ちゃんに等しく、毎日「生まれて初めて」に出会います。はじめての動脈採血、はじめての電気ショック、はじめての中心静脈穿刺。これまで座学では学んできたはずなのに、話を聞くのと実際に自分でやるのとでは全然違うのです。初めてのことに対しては多少の不安もありますが、それをはるかに上回る楽しさを感じます。好奇心旺盛な私にとっては、毎日が本当にパラダイスです。もう、ワクワクが止まりません。

医師を志し、人体について学び始めてからずっと思うのが、「人間は生きていることが奇跡」ということです。忙しない日常を送っているとつい忘れがちになりますが、この命には限りがあります。それは明日かもしれないし、何十年も先のことかもしれません。限りがあるからこそ、一瞬一瞬を必死に、精一杯生きようと私は思うのです。

ワクワクとは、期待して興奮し、心を躍らせること。ワクワクが止まらない「医師」という職業は、私にとって天職なのだと思います。限りある自分の人生をド派手に輝かせてあげられるのは、自分自身だけです。そのためにも、これからもワクワクを追い求め、全力で医師人生を全うしたいと思います。

皆様は最近,何にワクワクしましたか?







研修医の近況報告

中津市立中津市民病院

阿部祐太

盛夏の候、諸先生方におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。 私は中津市立中津市民病院で臨床研修をさせて頂いている研修医1年目の阿部祐太と申します。 この場をお借りして自己紹介をさせて頂きます。

私は大分県宇佐市で生まれ、中学卒業までの間、お隣の豊後高田市で暮らしていました。高校は 大分東明高校に進学し、大学も地元大分大学に入学し、今春3月に卒業いたしました。卒業後の 現在は中津市民病院にて研修を行っており、生まれ育った大分県北部の医療に携われることが 大変嬉しいです。

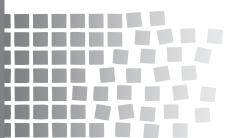
研修医としてスタートしてから2ヶ月程が経過いたしましたが、まず感じたことは自分の無力さでした。医療器具の使い方や薬品の名称など、医療の基礎となる部分が圧倒的に足りていないと痛感しました。医師としての自信の無さから、患者さんに接する際にもいつも緊張していました。どのようにして知識を得て、どのようにして手技を身につけるか分からずとても不安でしたが、中津市民病院の研修プログラム、上級医の先生方、病棟スタッフの方々、研修医の先輩方、同期のおかげで日々多くのことを学ばせて頂いております。

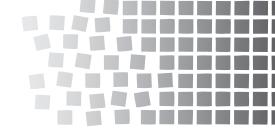
知識については、朝の放射線勉強会や救急症例の勉強会などで幅広い領域の臨床知識を学ぶことができ、研修医勉強会では、研修医がまず学ぶべきことを重点的に学習することが出来るので、研修医のスタートとしてとても勉強がしやすいです。また、各科の垣根が低く、様々な科の先生方から良かった点や自分自身の改善点、不足している点についてのアドバイスを頂けるので大変勉強になり、医学学習に対するモチベーションが高まります。

手技についても、上級医の先生方が優しく丁寧な指導を行ってくださり、少しずつではありますが 手技を覚えられることがとても嬉しいです。また手技を行う際には、2年次の先輩方が事前に アドバイスなどを下さるので、とても心強いです。

まだまだ医師としてだけでなく研修医としても未熟ではありますが、患者さんからありがとうという言葉を頂いた際や、担当患者さんが元気になり退院される際には、医師としてのやりがいを感じ、これからもっともっと頑張ろうという気持ちになります。これから医師として多くのことを学び、成長する中でも研修医を始めたばかりの今の気持ちを忘れることなく努力を積み重ねて参りたいと思います。そして、これからの大分県の医療に貢献できるような医師に成長したいと思います。まだまだ至らぬ点が多々ありますが、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、支えて下さる全ての方々に感謝し、また諸先生方の益々のご活躍を祈願して、 研修医1年目の近況報告とさせて頂きます。ご精読ありがとうございました。







ご報告。

大分県立病院 初期研修医 中 村 裕 太

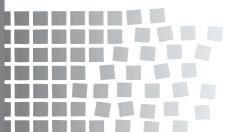
薫風さわやかな季節を迎え、諸先生方におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。私は大分県立病院にて臨床研修をさせていただいています研修医2年目の中村裕太と申します。

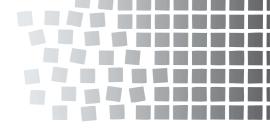
整形外科医である父親がロンドン大学王立整形外科病院へ母親とともに留学中に産まれたため、私はイギリスにて生を享けました。サッカーにお詳しい方なら御存知である中村俊輔が在籍していたことのある、セルティックの本拠地スコットランドの首都グラスゴーにて1995年に産まれました。出産後、10ヶ月ほどで帰国し、その後は大分市で育てられました。大分東明高校を卒業後、皆さんが大好きな北九州予備校にて1年間浪人し、石川県にあります金沢医科大学に合格しました。九州という温暖な地域で育った私には、北陸の冬は大変厳しいものがありました。進級試験が重なる1.2月には車の形すら見えなくなるほどの積雪に日々圧倒され、数時間の雪かき後に勉強することが日常茶飯事でした。北は北海道、南は沖縄から様々な地域から集う同期たちと苦楽をともにし、第115回医師国家試験に合格した後、昨年4月から大分県立病院の初期研修医として働かせていただいております。

同期20名の県内では有数の人数を誇る大分県立病院の同期たちは、県外から来た私をすぐに受け入れてくれました。私が酸素投与のための鼻カニューレのチューブを吸引に繋ぐミスをした時、「痙攣をジアゼパムでなく素手で止めた」という私を遥かに上回るエピソードで元気付けてくれました。非常に頼もしくも親しみやすさもある同期たちには、日々刺激を受けております。

私は来年4月より、父の病院を継ぐべく、大分大学整形外科に入局させていただきます。研修医1年目の3月に整形外科をローテーションしましたが、国家試験レベルの薄い知識しか持ち合わせていない私は自分の無力さを痛感させられる1ヶ月となりました。代々続く整形外科医の父方の家系がありながら、遺伝だけではどうにもならないことを思い知らされました。整形外科道の道のりの奥深さを目の当たりにし、今後1年間の研修期間で後期研修へと繋がる研修生活を送ろうと思っております。

以上を持ちまして、私の研修医1年目までの半生の簡単な紹介になります。今後もご指導ご鞭撻の ほど、宜しくお願い致します。最後までご精読ありがとうございました。







高齢研修医の泣きどころ・・・?

大分県立病院

桐田卓也

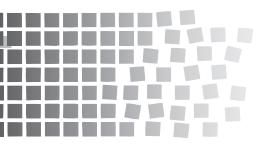
大分県立病院、研修医1年目の桐田と申します。なんとか無事に国家試験に合格し、医師としての第一歩を踏み出すことが出来ました。毎日のように医籍検索に自分の氏名を打ち込んでは、結果がしっかりと表示される喜びを噛み締めています。

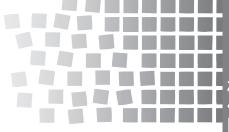
ところで私は紆余と曲折まみれの人生を送ってきたため、1年目ながら現在32歳です。同期とは最大で8歳も離れています。そして今この年齢差が原因(?)で早くも研修医として大きな課題を抱えています。何を隠そう、このぽっこりと膨らんだお腹です。

仕事始めが迫る3月末、引っ越しも一段落した私はふと部屋に転がっていたメジャーを自分のお腹に巻き付けました。結果は・・83cm。ん?メタボの基準値って85cmじゃなかったか?そんなはずは・・。しかし何度測っても結果は83。思い返してみると、国家試験前は勉強を言い訳に家に引きこもり、試験後はお祝いだからと食べてばかりの生活を送ってきました。条件は揃っています。しかし私はこれから医師として働く身、最初に思い付いた結論に簡単に飛びついてはいけないと自分を諌めます。試しにお腹に力を入れてみましょう・・78cm、よし!その日はとりあえず経過観察としました。

そして4月に入り遂に研修医として働き始めた、そんなある日。同期でお互いに12誘導心電図を取り合って練習する流れになりました。練習のためとはいえ若い女性を脱がせては当然セクハラですから、こんな時は私が被検者として一肌脱ぐしかありません。軽やかにベッドに座り、シャツをまくると、そこには私の想像を遥かに超える立派な腹がありました。まだ前かがみで座った体勢をしていることもあり、脂肪の塊が視界いっぱいに鎮座しています。寝転べば拡がって何とかなるだろうと一縷の望みにかけながら寝転びましたが、その望みも虚しくぽっこりと丸く膨らんだ腹が高くそびえています。諦めの悪い私はここでふっと腹に力を入れて、大丈夫、まだ78だと自分に言い聞かせます。しかし優秀な同期はそんな私の甘えを許してはくれませんでした。「はーい、力抜いてくださいね~」。私は遂に観念し、そして悟りました。これから先の2年間、ぽっこりお腹のおじさんとして過ごしていくのだと。

こうして私はたるんだ腹回りと共に新生活をスタートすることになってしまいました。だらしないお腹を晒した事実は変えられませんが、とりあえず内臓脂肪を減らさねばなりません。最近はパサパサした鶏肉を食べながら、googleに「トレーニングダイエット自宅」と打ち込み、コンビニのお菓子売り場を3往復したあとに10秒悩んでなんとか我慢するという生活を送っています。これからは心機一転、仕事も体型もスマートな研修医を目指して精一杯頑張っていく所存です。私のくだらない話に付き合っていただき、どうもありがとうございました。







医療のDX化と将来予測

大分県厚生連鶴見病院

長 嶋 大 地

今年度から研修医の長嶋と申します。津村先生から紹介いただき、この「研修医コーナー」を書かせていただきました。今(3/16)はまだ国家試験合格の報がありホッとしているところです。津村先生とは学生時代ポリクリ(臨床実習)でご一緒でした。今現在は大分のDX化推進グループの一員として活動しています。プログラミングなどの知識が多少あるので、グループではアイデアの実現性や技術的な部分の翻訳を行っています。まだ医療現場に立っていない駆け出しの新米がこのような場をお借りするのは大変恐縮ですが、私なりの将来予測と医療におけるDX化についてお話できたらと思います。

まずはDX化について。おそらく数年以内に電子カルテ標準化の時代が来ると思います。今の電子カルテは文書や画像を、ただそのままデータとして保存しているだけですので論文作成に必要な状態に加工したり、必要な情報"だけ"を簡潔に引き出したりすることが難しいです。しかし医療情報システム機関であるHL7が近年策定したFHIR(ファイアーと読みます)によってこれらの問題がかなり解決されると予想します。FHIRはWebをベースにした技術ですので、普段私達がスマホなどで親しんでいるように、便利にカルテが扱えるようになります。実際、iPhoneのヘルスケアアプリはこのFHIR規格準拠ですし、GAFAもFHIRに対応した様々なサービスを打ち出しております。個人の健康情報を持ち歩く時代がやってくると思います。またこれを機にクラウド化が進むとも予想しています。そうなればどこの場所、どの端末でもカルテにアクセスできるようになるでしょう。かいつまんで説明していますので、気になる方はFHIRで調べていただけると幸いです。

次に将来予測について。世の中には様々な将来予測がありますが、私は入学当初から、医師需給分科会の資料を見ています。分科会のここ数年の議題は「如何にして医学部の定員を減らすか」です。1月に出た取りまとめでは令和11年頃に医療需給は均衡すると報告されています。つまりこのまま定員削減がなければ、それ以降は「医者余り」が発生すると言われています。本来であれば令和2年から医学部定員が削減されるはずでしたが、昨今の新型コロナウイルス感染症の混乱で、未だ定員自体は削減されていません。しかし多くの方が疑問に感じるのが、本当に医者があまる時代が来るのかということです。定員を削減したところで、一番割りを食うのが地方だと私は考えています。そうした中でより一層デジタル技術による効率化が求められると思います。他県出身の私が大分で研修をしようと考えたのも、その最前線に立ちたいと考えたからです。ノーコードなどの普及で技術検証も以前より簡単になりつつあります。DX化が全てを解決してくれるわけではありませんが、少なくとも解決の糸口はそこにあると私は考えています。